

「お化けたんぽぽ」再び



2014年4月25日（金）、下野新聞に宇都宮で現れた「**タンポポの帯化**」現象が紹介されていた。これは、昨年度、佐高のグランド奥の空き地で見つかった「**お化けタンポポ**」と同じ現象である。やはり、**奇妙なタンポポ**として話題になったようだ。

ちなみに、下野新聞（2014.4.25）では以下のように紹介されている。

「土手に突然変異タンポポ」

【宇都宮】宝井町、中里春夫さん（76）方東の小川の土手に奇妙なタンポポが現れ、近所の話題になっている。

通常細くて断面が丸い薄緑の茎が、幅約5センチ、厚みが1・5センチほどもあり、先端に花がぎっしり密集している。20日午前中に散歩していた中里さんが、何げなく目をやり気付いた。舌状の小さな花が集まって一つになる円盤状の花が、10個分ほども集まっている。

県立博物館の星直斗主任研究員（43）によると「**帯化**」という現象で、突然変異で成長点が異常に分裂して花や茎が横に並び帯状になったという。「キク科の植物やユリ科の植物の一部にたまに見られるが、発生の頻度は分からない。見る機会はありません」という。

星主任研究員は「たまたま空間放射線量の高い場所で見つかったとしても放射線の影響ではないから気にしないで」と話している。



5月6日、去年「お化けタンポポ」が見つかった**佐高の空き地**で、今年も出現しているかどうか調べてみた。タンポポの花の時期はすでに終わり、一面に綿毛をつけていたが、探してみると、数株の「お化けタンポポ」を発見した（上の写真）。

4月13日には、生物部の小西君が調査の際に、田んぼの土手で一株の「お化けタンポポ」を見つけている（右の写真→）

下野新聞には、「見る機会はありません」とあったが、調べてみると、自然界では、**結構な割合で**存在しているのかもしれない。

（→誰か、中学生の自由研究で調べてみませんか。念なら、まだ間に合います。こんな研究はまだ見たことがありません。）



